

GIGAスクール構想のもとでの 中学校社会科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの中学校社会科の指導において ICTを活用する際のポイント

(1) 学び方や調べ方を大切に、生徒の主体的な学習を一層重視

中学校学習指導要領（平成29年告示）第2章第2節社会
第3の2 内容の取扱いについての配慮事項(2)

情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、**コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かれようとして学習に取り組めるようにすること。**その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、**情報モラルの指導にも留意すること。**

生徒が、自ら問題意識をもち、問題解決の見通しを立て、必要な情報を収集し、情報を読み取り、情報を分類・整理してまとめたりする学習活動の構成が大切

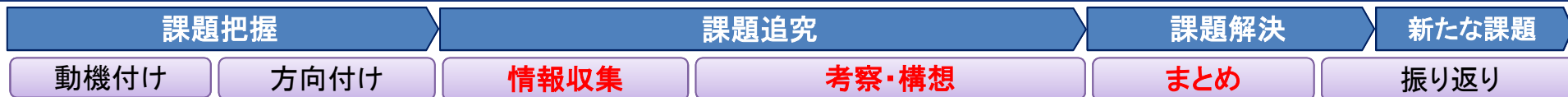
○環境の整備

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう、生徒が学習において日常的にICTを活用できる情報通信機器の使用環境の整備

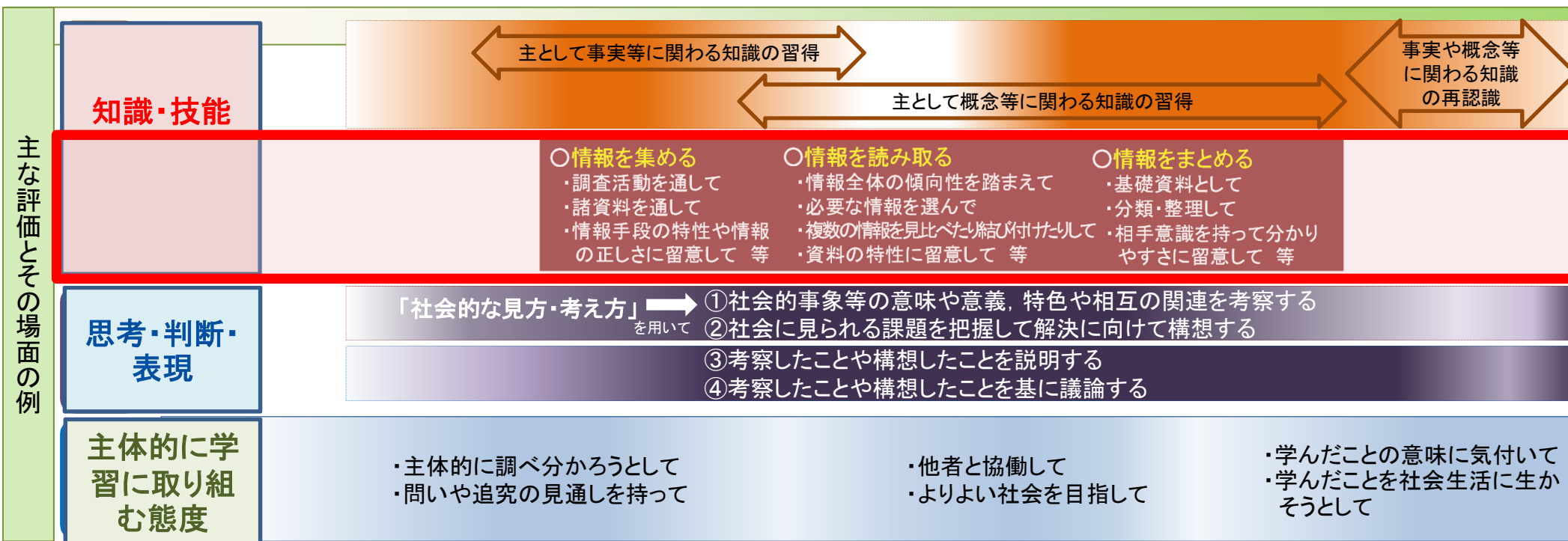
○指導上の留意点

- ・ ICTを活用した学習場面を想定し、単元を通じた授業デザインの必要
- ・ 情報モラルの指導への留意
- ・ 課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにする指導

社会科，地理歴史科，公民科における学習過程のイメージ



主な学習過程の例	課題把握	課題追究	課題解決	新たな課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決の見通しを持つ ・予想や仮説を立てる ・調査方法，追究方法を吟味する ・学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予想や仮説の検証に向けて調べる ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の児童生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う(討論等) ● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の児童生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる



■ 学習過程全体について留意すべき点 ■

- ・上記の学習過程及び評価の場面は例示であり，上例に限定されるものではないこと
- ・主体的・対話的で深い学びを意図した，単元の構成の工夫等が望まれること
- ・社会的事象等については，児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際，特定の事柄を強調しすぎたり，一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより，児童生徒が多面的・多角的に考察し，事実を客観的に捉え，公正に判断することを妨げるようなことのないよう留意すること。また，客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

GIGAスクール構想のもとでの中学校社会科の指導において ICTを活用する際のポイント

(2) 「社会的事象等について調べまとめる技能」の育成

中学校学習指導要領（平成29年告示）第2章第2節社会
第3の2 内容の取扱いについての配慮事項(3)

調査や諸資料から、**社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視**するとともに、**作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図る**ようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。

- 「**社会的事象等について調べまとめる技能**」を小学校社会科，中学校社会科，高等学校地理歴史科及び公民科の学習指導要領解説に共通して掲載
- 「社会的事象等について調べまとめる技能」を生徒に身に付けさせるため、**ICT端末を活用した学習活動のより一層の充実が求められる**

社会的事象等について調べまとめる技能

情報を収集する技能

等に段
関を考
するえ
情て報
課を題
を収解
集集決
するに
必要能
な社会
的事象

【1】調査活動を通して

- 野外調査活動
 - ・調査の観点(数, 量, 配置等)に基づいて, 現地の様子や実物を観察し情報を集める
 - ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し, 情報を集める
 - ・地図を現地に持って行き, 現地との対応関係を観察し, 情報を集める
- 社会調査活動
 - ・行政機関や事業者, 地域住民等を対象に聞き取り調査, アンケート調査などを行い, 情報を集める

【2】諸資料を通して

- 資料の種類
 - ・地図(様々な種類の地図)や地球儀から, 位置関係や形状, 分布, 面積, 記載内容などの情報を集める
 - ・年表から, 出来事やその時期, 推移などの情報を集める
 - ・統計(表やグラフ)から傾向や変化などの情報を集める
 - ・新聞, 図書や文書, 音声, 画像(動画, 静止画), 現物資料などから様々な情報を集める

○その他

- ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める
- ・博物館や郷土資料館等の施設, 学校図書館や公共図書館, コンピュータなどを活用して映像, 読み物や紀行文, 旅行経験者の体験記など様々な情報を集める
- ・**コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して, 目的に応じて様々な情報を集める**

【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して

- ・資料の表題, 出典, 年代, 作成者などを確認し, その信頼性を踏まえつつ情報を集める
- ・情報手段の特性に留意して情報を集める
- ・情報発信者の意図, 発信過程などに留意して情報を集める

情報を読み取る技能

え収集
した沿
った情
て報を
読み取
る社会
的的な
技能見
方考

【1】情報全体の傾向性を踏まえて

- ・位置や分布, 広がり, 形状などの全体的な傾向を読み取る
- ・量やその変化, 区分や移動などの全体的な傾向を読み取る
- ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から, 展示テーマの趣旨を読み取る

【2】必要な情報を選んで

- 事実を正確に読み取る
 - ・形状, 色, 数, 種類, 大きさ, 名称などに関する情報を読み取る
 - ・方位, 記号, 高さ, 区分などを読み取る(地図)
 - ・年号や時期, 前後関係などを読み取る(年表)
- 有用な情報を選んで読み取る
 - ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る
 - ・諸情報の中から, 目的に応じた情報を選別して読み取る
- 信頼できる情報について読み取る

【3】複数の情報を見比べたり結び付けたりして

- ・異なる情報を見比べ(時期や範囲の異なる地域の様子など)たり, 結び付け(地形条件と土地利用の様子など)たりして読み取る
- ・同一の事象に関する異種の資料(グラフと文章など)の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る
- ・同種の資料における異なる表現(複数の地図, 複数のグラフ, 複数の新聞など)を見比べたり結び付けたりして読み取る

【4】資料の特性に留意して

- ・地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る
- ・歴史資料の作成目的, 作成時期, 作成者を踏まえて読み取る
- ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る

情報をまとめる技能

に読み
向け取
った情
め報を
技能課
題解決

【1】基礎資料として

- ・聞き取って自分のメモにまとめる
- ・地図上にドットでまとめる
- ・数値情報をグラフに転換する(雨温図など)

【2】分類・整理して

- ・項目やカテゴリーなどに整理してまとめる
- ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる
- ・位置や方位, 範囲などで整理して白地図上にまとめる
- ・相互関係を整理して図(イメージマップやフローチャートなど)にまとめる
- ・**情報機器を用いて, デジタル化した情報を統合したり, 編集したりしてまとめる**

【3】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して

- ・効果的な形式でまとめる
- ・主題に沿ってまとめる
- ・レイアウトを工夫してまとめる
- ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する

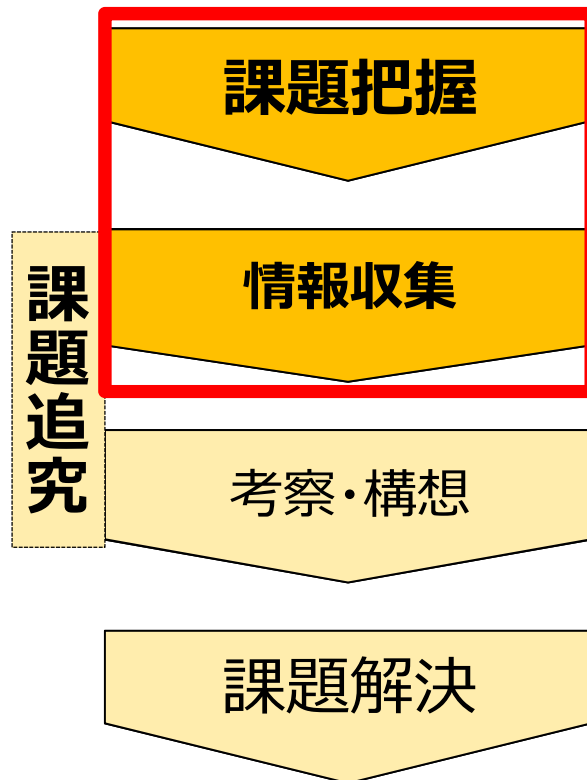
中学校・社会科 地理的分野・「日本の諸地域」①

育成を目指す資質・能力

東北地方の地域的特色や地域の課題，交通や通信を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象とそれに関連する他の事象，そこで生ずる課題について理解する。中核となる事象の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現する。日本の諸地域について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付ける。

ICT活用のポイント

生徒一人一人が「なぜ，東北地方では交通網の整備が進んでいるのだろう。」という問題意識をもち、問題解決の見通しをもった後、必要な情報を収集したり、収集した情報を読み取ったり、読み取った情報を分類・整理して話し合ったりする際に一人一台のICT端末を活用することで、学習活動の幅を広げることができる。



事例の概要

○「学習課題を把握する場面」において

学習課題の解決に向けて見通しを持つ場面において，効果的な動画を活用することで，単元の学習に対する生徒の動機付けを図るとともに，予想や仮説を立てたり，調査方法，追究方法を吟味したり，学習計画を立てたりする際の方向付けを図ることができる。

○「学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面」において

経済産業省の「地域経済分析システム（RESAS）」や総務省統計局の「政府統計の総合窓口（e-Stat）」などの公的機関が提供する地図サイトや統計サイトを，ICTを活用して生徒一人一人に利用させることで，対象地域の地域的特色を捉えるための信頼性の高い情報を収集する技能を身に付けることができる。

また，自ら収集した資料から読み取った情報を基に，他者との対話を通して，東北地方の交通や通信に関わる地域的特色を，他の事象や地域の課題と有機的に関連付けて考察し表現する活動を通して，社会的事象について主体的に調べ分かっていくと課題を意欲的に解決しようとする態度を育成することが期待できる。

中学校・社会科 地理的分野・「日本の諸地域」②

【課題を把握し，課題解決の見通しを持つ場面】



問い：「東北地方の伝統行事にはどのような共通点が見られるのだろう。」

- NHK for schoolで『秋田の竿燈まつり』，『仙台七夕まつり』などの短時間の動画を閲覧し，気付いたことを話し合う。（※付箋機能を利用して話し合うことも考えられる。）

ICT活用のメリット

- 動画を近くで確認でき，微細な情報も見つけやすい
- 必要に応じて個別再生が可能

【学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面】



問い：「東北地方のお祭りを観光資源として活用するにはどのような工夫をしたらよいのだろう。」，「東北地方では，どのように他地域とのつながりをもとうとしているのだろう。」等

- ビッグデータを用いることで課題解決に向けて有用な資料を収集することができることを理解する。
- 流線図等，様々な主題図から情報を適切に読み取る技能を身に付ける。

ICT活用のメリット

- 生徒の関心を高める資料の提示
- 信頼性の高い情報にアクセスする技能の習得
➔ C(4)「地域の在り方」の地域調査での活用

例) RESAS→まちづくりマップ→From-to分析
→表示地域を市区町村とし，秋田県秋田市を設定
→2020年6月と2018年の8月を比較

【活用したソフトや機能】 ウェブブラウザ（動画視聴，RESAS閲覧）

中学校・社会科 公民的分野・「私たちが生きる現代社会と文化の特色」①

育成を目指す資質・能力

現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られること、現代社会における文化の意義や影響について理解する。位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、新聞記事等の資料をもとに、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現する。私たちが生きる現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を身に付ける。

ICT活用のポイント

子供一人一人が「現代日本の社会にはどのような特色が見られるだろうか。」という問題意識をもち、問題解決の見通しをもった後、必要な情報を収集したり、収集した情報を読み取ったり、読み取った情報を分類・整理して話し合ったりする際に一人一台のICT端末を活用することで、学習活動の幅を広げることができる。

事例の概要

単元を貫く問い「現代日本の社会と私たちにはどのような関わりがあるだろう」のもとで現代日本の特色を理解し、文化の継承と発展を目指す地域の実態を把握する。

○「考察し、構想する場面」において

単元を貫く問いについて考察し、構想する場面において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察するとともに、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する。その際、一人一台のICT端末を活用することで、新聞記事等の情報を探して、「新聞記事の概要」「考えたこと、疑問に思ったこと」「現代日本と新聞記事との関わり」「現代日本の社会への考え」といった観点から、現代日本の特色や課題を考察することができる。

○「考察したことや構想したことをまとめる場面」において

課題解決に向けて、考察したことや構想したことをまとめる場面において、学習課題を振り返って結論をまとめ、まとめた結論について他の生徒と意見交換を行い、学習課題についてまとめる。その際、一人一台のICT端末を活用することで、他の生徒との意見交換を充実させ、多くの生徒の考えに触れさせることで、現代日本の社会の課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察することができる。

課題把握

情報収集

考察・構想

課題解決

課題追究

中学校・社会科 公民的分野・「私たちが生きる現代社会と文化の特色」②

【考察し、構想する場面】

〇〇〇 2020/7/21 12:52
プラスチックごみ問題 「使い捨て」見直そう＝論説委員・元村有希子
 2020年7月16日、朝日新聞、朝刊
<https://mainichi.jp/articles/20200721/q04/d070/q170000>
★新聞記事の概要
 ・レジ袋の有料化が全国で始まったが、レジ袋が占めるプラスチックごみの割合は約2%
 ・日本は1人当たりの使い捨てプラ消費が米国に次いで多い「使い捨て王国」である。
 ・有料化をきっかけに、プラスチックに過度に依存する生活や使い捨て文化を見直した方がよいと指摘している。
★発見したこと、考えたこと、疑問に思ったこと
 レジ袋の有料化実施されたことに関して、コンビニなどの今までレジ袋を提供していた店舗がプラスチックごみ全体の2%であるという事実に驚いたが、削減しやすいつまみ部分であると感じた。
★現代日本と新聞記事との関わり
 この記事では、レジ袋の有料化を機に、ごみ削減の問題や、リサイクルの問題に言及し、ごみを持続可能な社会の問題に直結する。
★新聞記事を踏まえた持続可能な社会への考え
 この新聞記事を踏まえて持続可能な社会の現状の分野や、循環型社会における、ごみの分別・収集の仕組みが確立している一方で、回収された後のプラスチックの問題にも目を向ける必要があると思った。

ある生徒の探した新聞記事

ある生徒の探した新聞記事

ある生徒は、ICT端末を活用して探した「プラスチックゴミ」の新聞記事をもとに、持続可能な社会のしくみに気づき、考察する。
 (情報の収集／情報の読み取り)

【考察したことや構想したことをまとめる場面】

すべて折りたたむ

山珠 〇〇〇 2020/7/21 19:47
 レジ袋がプラスチックゴミの2%しか占めていないことに驚きを感じた。レジ袋の有料化により、少なくとも自分は物を大切にすることを高まったように感じる。プラスチックごみ問題は、解決するための対策をしてから大きな効果が出るまでに相当な時間がかかるだろう。しかし、対策を行わない限り、今の状況は何も変わらないため、対策は早めに行うべきである。国民ひとりひとりの意識改善が重要になると思った。

遠大 〇〇〇 2020/7/21 20:35
 7月1日より全国でレジ袋の有料化が始まった。プラスチックごみは環境に様々な影響を与えるため、このように国全体で削減の方向に向かっていることは良いことだと感じた。しかしレジ袋はプラごみの約2%しか占めておらず、レジ袋だけでは、大きな変化にはならないように感じる。そこでレジ袋を通して、プラごみに関する意識変化が入れれば環境にとっても良い方向に行くのではないかと感じた。

清音 〇〇〇 2020/7/21 23:37
 レジ袋の有料化を機会にして、プラスチックごみ削減についてより考え、行動していかなければならないと感じた。また、日本のプラスチックごみの排出量がアメリカに次いで多いという点に驚き、焦りを感じた。ネットショッピングで送られてきた商品の梱包などには、過度なビニールなどが良く使われていることを思い出し、日本人として少し恥ずかしいと感じた。

鈴も 〇〇〇 2020/7/21 23:47
 レジ袋の有料化されたことで、2%のゴミの削減ができることは大きい変化だと思う。逆に私は私の回りに溢れているプラスチックゴミの2%をレジ袋だけでしめていることに驚いた。またこれが人々の意識を変えることに大きな効果を持っていると思う。リサイクルやエコバッグの持参など私自身見直すようになった。これからの社会を担う私たち子どもが特に意識を改善していくことでより良い持続可能な社会を目指していけるのではないだろうか。

陽佳 〇〇〇 2020/7/21 23:57
 レジ袋の占めるプラスチックごみの割合は2%と書いてあり、一見少ないように思われるが、レジ袋の有料化に伴い間違いなくこの割合が2%から減るのは大きいと考える。しかしやはり減らせても2%というの間違いのないので、他にもプラスチックごみを減らすように取り組むことは必要だし、そのために私生活を見直すのも大切だと思った。

山夕 〇〇〇 2020/7/22 0:00
 プラスチックが環境に及ぼす悪影響は大きい。2パーセントにすぎなくとも大きな一歩となるのではないだろうか。レジ袋のほかにもプラスチックのペットボトルやストローなど、身近なものでプラスチックの使用を減らす必要がある。

ある生徒の持続可能な社会での「プラスチックゴミ」の課題に関する考えに対して、グループの生徒一人ひとりが、ICT端末を活用して、賛成・反対の意見や考えを入力する。(相互の意見交換)

問い：「現代日本の社会にはどのような特色が見られるだろうか。」

・学習支援ソフトのチャット機能やファイル共有機能を活用して、生徒一人一人の探した新聞記事や関連する資料・統計等を掲載して、気付いたことや考えたことを入力する。

ICT活用のメリット

- インターネットで得た情報の整理・活用
- 複数の生徒の考えの即時の共有
- 端的に自分の考えをまとめる技能の習得

問い：「現代日本の社会の課題をどのように解決したらよieldろうか。」

・学習支援ソフトのチャット機能やファイル共有機能を活用して自分以外の生徒の探した新聞記事や関連する資料・統計等へのコメントに、賛成・反対等の意見や考えを入力する。

・学習支援ソフトのチャット機能やファイル共有機能を活用して自分の考えをまとめて、発信する。

ICT活用のメリット

- 相互の意見交換の経過に基づく自分の考えの再構築
- 自分の学習過程と成長の可視化

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト

育成を目指す資質・能力

福島県提供

【知識・技能】 交通・通信網の今日的課題を理解し、統計資料や地図から、世界や日本の交通・通信網の発達や変化を読み取る・まとめる技能

【思考・判断・表現】 交通・通信網の発達による人々の生活の変化や諸課題について様々な地域スケールで考察し、自分の言葉でまとめる力

【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現に向けて、交通・通信網の諸課題について主体的に追究しようとする態度

ICT活用のポイント

- ① 地理院地形図や写真、画像を提示することにより、東北中央自動車道の全線開通により福島市にどのような変化があるのかという問いをもたせる。
- ② 地域が発展するために大切なことを多面的・多角的に考察するために、ウェブ会議システムを活用して、高速道路開通による変化について、市役所職員から話を聞き、質問したり意見を述べたりする。専門家から直接話を聞くことで地域にみられる課題やその解決に向けた取組について理解を深めることができる。

① 動機付け

方向付け

情報収集

② 考察・構想

まとめ

振り返り

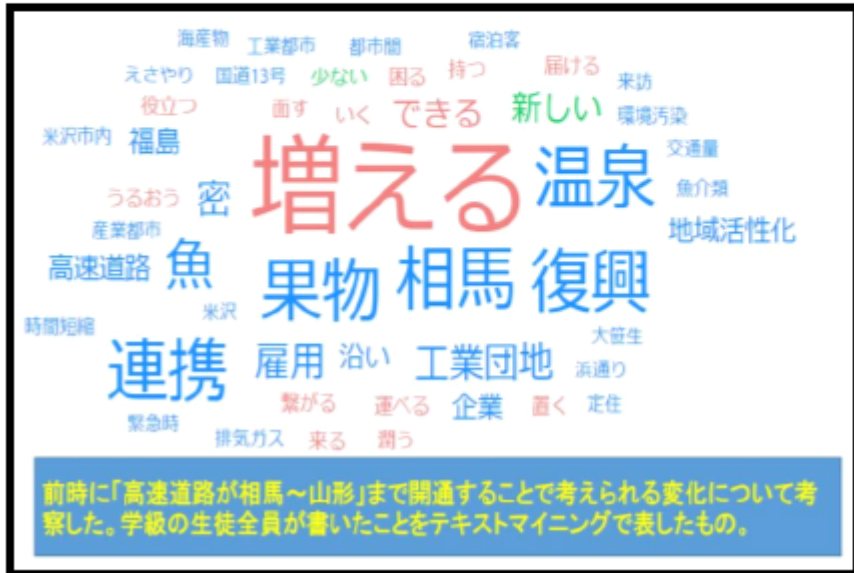
事例の概要

- ① 福島県の地理院地図を提示することにより、高速道路の分布を視覚的に捉えることができるようにする。
- ① 写真を提示したり、整理・分析の画像を提示して前時の振り返りをしたりすることにより、自分たちの地域を通る東北中央自動車道の全線開通によって、福島市にどのような変化があるかという問いをもたせる。
- ② すでに高速道路が開通している他県の市役所職員とウェブ会議システムをつなぎ、高速道路が開通したことによる変化について新たな視点を提示してもらう。
- ② 市役所職員の話聞いて、考えたことをウェブ会議システムを活用して質問したり、意見を述べたりする。

【中学校・社会科・地理的分野・第2学年・日本の地域的特色と地域区分】①

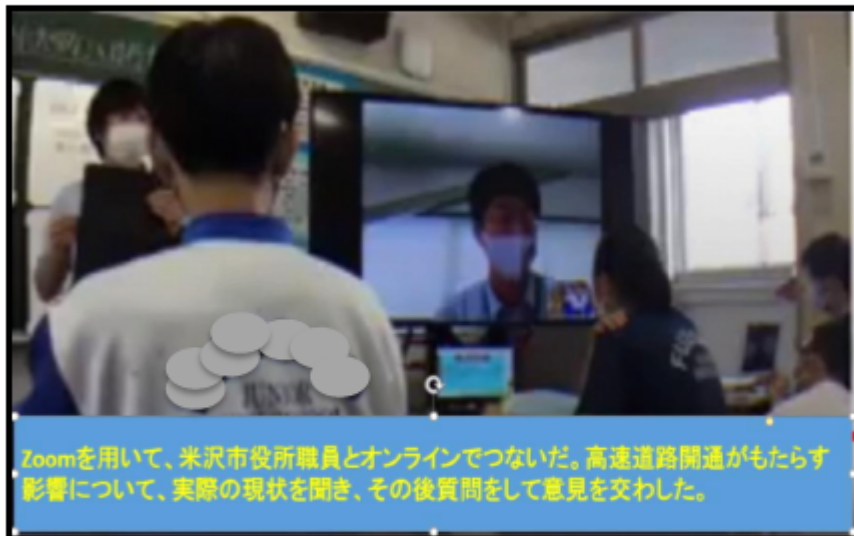
07 / 福島県

【事例におけるICT活用の場面①（動機付け・方向付け）】



- 授業の導入でICT機器を活用し、視覚的に資料を提示したり、考えを共有したりすることは、生徒の興味関心を高め、生徒一人一人に問いを持たせる上で効果的である。
- 活用に当たっては、すべてを提示してしまうのではなく、一部を隠したり、提示する部分を限定したりするなど工夫して、生徒が「あれ？」「どうして？」という疑問を抱いたり、「知りたい」「調べたい」という意欲をもったりすることができるようにする。

【事例におけるICT活用の場面②（考察・構想）】



- 現在コロナウイルスの影響から校外学習等を実施することが難しくなっている。ICT機器を活用することにより、専門家から直接話をうかがえることは生徒にとって大変貴重な学びとなる。
- 活用に当たっては、講師となる方に話をさせていただく内容について事前に打合せを行う必要がある。また、一方的に話を聞くだけでなく、双方向のやりとりができるように生徒からの質問時間を設定するとともに、質問事項の整理など事前準備を行って聞き取り調査によって情報を収集する技能を身に付けさせる。
- 本事例を発展させることにより、他校や世界中の人々と簡単につながるができる。

【活用したソフトや機能】 活用場面①：地図（GoogleEarth）、テキストマイニング 活用場面②：ウェブ会議（Zoom）

育成を目指す資質・能力

仮想マニフェストの作成および模擬選挙の体験を通して、選挙への関心を高め、選挙制度の理解を深めることができる。

ICT活用のポイント

- ・生徒が候補者（市長）となって考えたマニフェストについて、プレゼン動画を事前に作成し、本時で視聴する。
- ・ICT端末でクラス全員が仮想投票を行い、結果を全体に示し、投票理由を聞く際に活用する。

事例の概要

本時の学習の確認

マニフェスト動画の視聴

端末を使った仮投票および
結果の表示

投票した理由を意見交換

最終投票

①マニフェスト動画の視聴

＜事前撮影＞

- ・グループで考えたマニフェストを紹介する方法として、事前にプレゼンを作成する。
- ・プレゼンの時間を設定した上で生徒たちはICT端末を使用し、何度も撮影のやり直しをしながら発表プレゼンを作成する。

＜動画の視聴＞

- ・クラス全員が大型テレビで視聴するが、見にくい場合は手元の端末で見ることができる。

②端末を使った仮投票および結果の表示

- ・動画の視聴後、アンケート機能を使い、生徒各自が投票する。
- ・全員の投票が終わった段階で、結果を大型テレビに示す。

※数人になぜその候補者に仮投票したのか理由を聞き、学級で意見交換する。最終投票は、選挙管理委員会から借りた本物の投票箱で実際と同じ形式で行う。

【授業の導入】



【マニフェスト動画視聴後 本投票の準備】



ICT活用の工夫（○）や留意事項（□）

- マニフェストを作成し、動画で撮影する活動は授業外の時間で行った。生徒たちはそれぞれに工夫を凝らし、手書きの資料を見せたり、キャッチフレーズを動画に挿入したりして取り組んだ。何度も撮影のやり直しができるので、納得のいくものを発表していた。
- 仮投票する際には、政策の内容で選択していくことが重要であるため、十分な念押しが必要である。
- 本投票を行う前に他の生徒が政策のどのような点を評価しているのかを話し合うため、I C T端末を使用し、仮投票を行った。挙手では多数の生徒に流されがちな生徒も、自分の考えを意思表示することができ、集計に時間もかからずその後の話し合いの時間を確保できた。
- 本投票をする前の話し合いが重要。政策を多面的・多角的に評価するため、既習事項である「効率と公正」などの視点で評価したことをクラス全体で共有するようにした上で、生徒は最終的な価値判断を行う。
- インターネット投票を行っている国の選挙に触れることで、投票率や投票方法等の選挙の課題に関連付けて、発展的な学習を行うことも考えられる。

【活用したソフトや機能】 動画撮影、動画編集、ファイル共有、アンケート